

法人化説明会 (会員対象)

および臨時評議員会のお知らせ

本学会の法人化に伴い、下記の通り法人化について会員の皆様に説明会を実施すると共に、臨時評議員会を開催致します。

万障お繰り合わせの上、ご出席下さいます様お願い致します。

<法人化に関する説明会>

対 象：全会員

日 時：2014年5月17日 (土) 10:00~12:00

場 所：慶應義塾大学信濃町キャンパス

(東京都、最寄り駅：JR信濃町駅)

<臨時評議委員会>

日 時：2014年3月8日 (土) 10:00~12:00

場 所：慶應義塾大学信濃町キャンパス

(東京都、最寄り駅：JR信濃町駅)



日本精神保健看護学会

第24回学術集会・総会のご案内

大会長挨拶

大寒を迎えいよいよ冬将軍が到来する時期となりました。今年の冬が穏やかな気候でありますよう、また今年1年が皆様にとって実り多き年となりますよう心よりお祈りいたします。

さて、来る平成26年6月21日（土）・22日（日）、横浜市立大学金沢八景キャンパスにて日本精神保健看護学会第24回学術集会・総会を開催いたします。それに向けて現在、万端を期して準備を進めております。

現代の精神保健看護学のトピックスのひとつに、アルコールや薬物依存症の問題、虐待、暴力の問題、自傷行為や共依存、性依存の問題、ギャンブル・ゲーム依存の問題など、いわゆるアディクション問題への対応があります。周囲のみならず本人さえその不利益を承知しているながら、どうすることもできないという事例は数限りなくあります。そこで今回、大会テーマを「嗜癖を知って看護に活かすー精神保健看護とアディクション問題ー」とし、基調講演ではDiane Snow先生（テキサス大学教授）をお招きすることになりました。先生のご講演、「アディクション問題を含めた精神保健医療における高度実践看護の実際と展望」を通して、米国の先駆的な看護実践を学んで頂けたらと思っております。

特別講演では、斎藤環先生（筑波大学大学院人間総合科学研究科教授）にご登壇頂き、「現代人が抱える依存性」と題して、現代社会が人の依存性をどのような方向に導いているのか、またそれを理解しつつケアに還元するためには、どのような配慮が必要なのかを、たくさん事例の中からひも解いてお話いただきます。

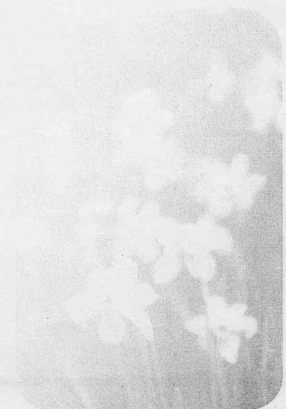
シンポジウムでは、メインテーマとして「精神保健看護における先駆的实践と将来展望」を掲げ、シンポジストの田上美千佳氏（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科 教授）、渡辺純一氏（公益財団法人井之頭病院精神看護専門看護師）、白井教子氏（北里大学病院精神看護専門看護師）、増子徳幸氏（訪問看護ステーションACT-J 管理責任者）より、それぞれの見地からお話を頂きます。

今大会は、久しぶりに大学施設での開催になります。教室等は潤沢にありますので是非、多くの方にご参加・ご発表いただきまして、活発にご議論いただきたいと思います。

現在、横浜大会のホームページ上にて、一般演題・ワークショップの募集を行っております。一人でも多くの皆様にご投稿・ご応募いただき、大会にご参加下さいますようお願い申し上げます。皆様のお越しを港横浜にて、心よりお待ちしております。

日本精神保健看護学会第24回学術集会・総会

大会長 松下 年子



日本精神保健看護学会第24回学術集会・総会

大会テーマ：「嗜癮を知って看護に活かす－精神保健看護とアディクション問題」

大会長：松下年子（横浜市立大学医学研究科・医学部看護学科 教授）

日 時：2014年6月21日（土）・22日（日）

場 所：横浜市立大学 金沢八景キャンパス（横浜市金沢区瀬戸22-2）

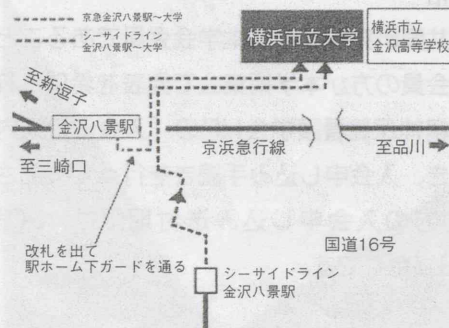
大会HP：<http://japmhn24.umin.jp/>

《会場への交通アクセス》

●京浜急行「金沢八景駅」下車 徒歩5分

主な駅から京浜急行「金沢八景駅」までの所要時間

- ・「横浜駅」から京浜急行快特・特急で約20分
- ・「品川駅」から京浜急行快特・特急で約40分



プログラム

第1日目 6月21日（土）

受付（8：30開始）

9：30～10：20

大会長講演「嗜癮を知って看護に活かす－精神保健看護とアディクション問題」

大会長：松下 年子（横浜市立大学）

座 長：宮本 眞巳（亀田医療大学）

10：30～11：45

基調講演「アディクション問題を含めた精神保健医療における高度実践看護の実際と展望」

演 者：Diane Snow（The University of Texas）

座 長：松下 年子（横浜市立大学）

12：00～12：50 ランチョンセミナー

13：00～14：30 総会

14：45～16：45

シンポジウム

「精神保健看護における先駆的实践と将来展望」

座 長：長谷川雅美（金沢医科大学）

萱間 真美（聖路加看護大学）

シンポジスト：渡辺 純一（公益財団法人井之頭病院）

白井 教子（北里大学病院）

増子 徳幸（訪問看護ステーションACT-J）

田上美千佳（東京医科歯科大学大学院）

17：00～18：15 ワークショップ

第2日目 6月22日（日）

受付（8：30開始）

9：00～11：45 一般演題

12：00～12：50 ランチョンセミナー

13：15～14：30

特別講演「現代人が抱える依存性」

演 者：斎藤 環（筑波大学大学院）

13：15～16：00 ワークショップ

一般演題およびワークショップの募集

1. 演題募集について

演題登録期限：2014年1月24日（金）正午

一般演題は、口演での発表としております。

演題募集は、UMINオンライン演題登録システムを利用し、オンライン登録のみ受付いたします。郵送による応募は受け付けませんのでご注意ください。必ずご本人に連絡ができる電子メールアドレスが必要になります。

■演題応募資格

発表者・共同研究者は全て本学会会員であることが必要です。非会員の方が本学術集会で発表を希望される場合は、日本精神保健看護学会HPの「入会のご案内」を参照いただき、入会申し込み手続きを行ってください。

*発表者の方の入会申し込み送付期限は、2014年1月24日（金）です。

■査読について

学術集会では、一般演題の査読を行います。査読は、倫理的配慮及び抄録としての適切性に焦点を当てて行います。

*研究において実施された倫理的配慮の具体的な内容を明記してください。大学や施設の倫理委員会に通っていれば、その旨の記載をしてください。

*演題採択結果につきましては、3月中に筆頭発表者にご連絡いたします。

2. ワークショップ企画募集について

応募期限：2014年1月24日（金）正午

■開催予定日時

6月21日（土）17:00-18:15、6月22日（日）

13:15-14:30、14:45-16:00

開催予定：24テーマ

*ワークショップを実施する部屋は、施設の関係上収容人数に違いがございます。ご希望に沿えない場合もございますので、予めご了承ください。

■応募要領

ワークショップの企画は、UMINオンライン演題登録システムを利用し、オンライン登録のみ受付いたします。必ずご本人に連絡ができる電子メールアドレスが必要になります。E-mail、ファックス、郵送等による応募は受け付けませんのでご注意ください。

*ワークショップ企画代表者および企画者は本学会会員とします。学会員以外の方は「協力者」としてワークショップの企画にご参加いただけます。

*企画採用の結果は、2月中にお知らせいたします。

学術集会参加申し込み

第24回学術集会への参加を希望される方は、学術集会HP「事前参加登録」ページにて「事前参加登録」ボタンより参加登録を済ませた上で、参加費のお支払いをお願いいたします。

*HPの登録と入金両方が確認されない場合、事前登録とみなされませんのでご注意ください。

■学会参加費

・事前参加登録

事前参加登録期限：2014年5月9日（金）正午

会員 7,000円 非会員 8,000円

学生 3,000円（大学院生は除く）

・当日参加登録

会員 8,000円 非会員 9,000円

学生 3,000円（大学院生は除く）

■参加費のお支払いについて

入金期限：2014年5月16日（金）（必須）

*事前参加登録後、クレジットカード（オンライン決済）、コンビニ決済、みずほ銀行への振込の3種類の

方法によりお支払いください。なお、支払時の手数料は恐れ入りますが各自ご負担くださいますようお願いいたします。

* 5月17日(土)以降に入金手続きいただきましても、事前参加登録としてお受けできませんので、ご注意ください。

《ワークショップの事前参加登録》

ワークショップへの参加登録は、3月上旬より学会HP上で行えます。

HP上の「ワークショップ参加登録」ボタンより登録を行って下さい。

《お問い合わせ先》

◎日本精神保健看護学会第24回学会集會・総会
運営事務局 (有) クリックトライ

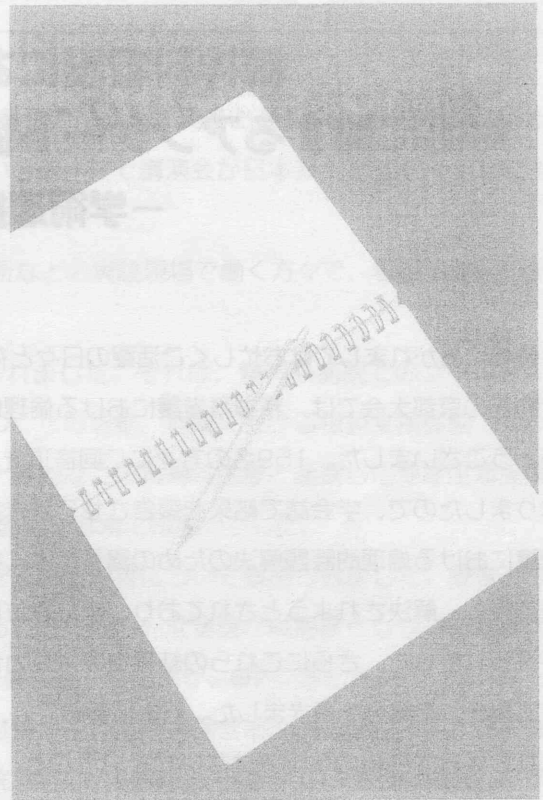
TEL : 03-5840-8528

FAX : 03-5684-1022

E-mail : japmhn24@clicktry.jp

◎日本精神保健看護学会第24回学会集會・総会 事務局
横浜市立大学医学部看護学科精神看護学領域

E-mail : japmhn24@yokohama-cu.ac.jp



投稿規定の変更について

この度、投稿から掲載までの作業を円滑にするために、投稿規定を以下の下線箇所のように修正・追加を致しました。ホームページ、学会誌もご参照いただき、ご投稿をお願い致します。

①原稿の枚数について

原稿の種類を問わず、図および表、文献を含めて、規定の枚数内にとどめること。ただし、その中に要約は含めないこと。

②要約について

要約は、投稿システムからの投稿時、PDFファイル内に含めること。ただし、規定の原稿枚数には含めないこと。

③投稿規定に未記載の項目について

APA (American Psychological Association) スタイルに則ること。

精神科看護における倫理的問題と 対処に関するアンケート協力お礼と看保連からのご報告 — 学術連携委員会から —

委員長 宇佐美しおり

皆様におかれましてはお忙しくご活躍の日々と存じますが、学術連携委員会では大変御世話になります。

昨年の京都大会では、精神科看護における倫理的課題と対処に関するアンケート調査にご協力頂き、ありがとうございました。159名の方々にご回答頂き、精神科看護における倫理的課題と対処の実態が明らかとなりましたので、学会誌で結果を報告させて頂きたいと考えております。ご回答いただいた方々は、精神科看護における倫理的課題解決のための講習によく参加されており、参加されている方々ほど倫理的課題をより認識し、解決されようとされており、また職位により、倫理的課題の認識と対処方法が異なるという結果が得られました。さらにこれらの結果をアメリカ合衆国精神科看護学会のベス・フェニックス先生と共有させて頂き、ご意見を頂きました。日本においては、家族の意思が状況により患者より尊重されることがあり、これらは日本独自の状況ではないかということ、また教育的活動に関するご示唆を頂きました。次年度は、これらの結果をともに、学術連携委員会においても、日本の精神科看護における倫理的課題解決のための方策を検討し、会員にむけての教育的活動を企画する予定にしております。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

また委員会では、平成27年度介護報酬改定にむけて、介護報酬改定のための資料を提出したいと考えております。精神科看護において、高齢者の精神障害者が増え、また身体合併症、認知症や老年期うつなど、加齢とともに管理が困難な症状や病態像がみられるようになってきています。そこで、専門性の高い看護師が訪問看護ステーションにおいて相談を行った場合の加算を申請したいと考えております。皆様の中でも、介護報酬改定にむけ、ご意見をお持ちの場合には、宇佐美まで (susami@kumamoto-u.ac.jp) ご連絡頂ければと思います。2月までにまとめて看保連へ申請書類を提出する予定ですので、それまでにご意見を頂きますようお願い申し上げます。

さらに、今年は、大変好評でした精神科リエゾンチーム講習会を、昨年同様、日本総合病院精神医学会とともに実施することにしてあります。平成26年7月19日土曜日（東京、一橋大学一橋講堂、東京都千代田区一ツ橋2-1-2、学術総合センター内）と平成27年1月24日土曜日（東京、一橋大学一橋講堂）の2回に分けて、1日ずつ実施する予定にしております。今後精神科リエゾンチーム活動を展開されるご予定の方々、すでに精神科リエゾンチーム活動を展開され、事例検討を深め自分の役割を再確認したいという方々、とに分け、企画する予定です。詳細はまたホームページやニュースレターを通じてお知らせいたします。周囲の方にもぜひお声かけを頂きますようお願い申し上げます。

今年もよろしく願いいたします。

日本精神保健看護学会、教育活動委員会主催研修会の報告

昨年の12月1日（日）、NPO法人十勝障がい者支援センター理事長の門屋充郎氏をお迎えし、「入院制度改革と精神障害者の自立支援－医療と福祉のミゾをどう埋めるか－」というテーマで講演会が日本赤十字看護大学で開催されました。

当日の参加者は94名で、そのうちの7割は、病院・地域の事業所などの実践現場で働く方々で、看護師以外の参加も目立ち、現場の関心の高さが伺えました。

講演ではまず、氏のこれまでの44年間に及ぶ実践について語られました。それは、精神科病院でのソーシャルワーカーとしての実践から、地域ケアセンターでのコミュニティづくりの活動、地域における相談支援体制づくりの活動まで、常に時代に先駆けた活動でした。とりわけ、帯広・十勝地域での精神科医療と連携した地域生活支援を展開する中で、地域全体の精神科病床が約半分に減少したという話は、非常に印象的でした。

また氏は、これまでの精神科医療福祉が、医学モデルに偏りすぎていた弊害について指摘されました。患者より医療優先が当たり前とされた結果、非自発的入院が多くなっていること、他の先進諸国が脱施設化しつつある時代に、精神科病床数が依然として高く、費用の面でも「医療」と「保健福祉」の比率が、97：3とアンバランスなものになっていることが挙げられました。そうした現状に対して、目前に控えた精神保健福祉法の改正では、退院後の生活環境相談員の選任の義務化が検討されており、医療保護入院患者の入院直後から退院後の生活を見越した支援計画の立案、患者の人権を擁護する「代弁者」の具体化が構想されていることが紹介されました。

そして氏は、今後の精神科医療の大転換を提言されました。それは、専門職中心から本人中心へ、精神科医療中心から個別的生活中心へ、すなわち支援の「医学モデル」から「社会（生活）モデル」への転換です。それにあたっては、医療関係者、中でも多数を占める看護職者の意識改革がもっとも重要であると、期待を込めて力説されました。とりわけ当事者を一方的に保護され治療される者とする「客体化された関係性」から、本人中心の、自己決定・新しい自立をエンパワメントする「主体化された関係性」への転換という提言には、目が覚める思いがしました。

フロアーからは、実践現場での理想通りには動かないきびしい現実とともに、精神障害者の思いを何とか尊重しようとする地道な実践についても語られました。さまざまな矛盾を抱えながらも、地域生活を基盤とした支援へと精神医療・福祉が転換しつつある中での、まさにタイムリーな研修会でした。

文責：小宮 敬子（日本赤十字看護大学）

教育活動委員会では、下記の予定で研修会を計画中です。詳しくはHPをご覧ください。

- ◇ テーマ：境界性パーソナリティ障害：DBT（弁証法的行動療法）をどう実践し看護するのか
－症例を通じて
- ◇ 講 師：永田 利彦（なんば・ながたクリニック）
- ◇ 日 時：3月1日（土）14:30～17:30
- ◇ 会 場：宝塚大学梅田キャンパス
- ◇ 申込先：郷良 淳子 mhnkensyu@gmail.com

理事会報告

平成25年度に入り、9月、12月に2回の理事会が開催されました。理事会では、今年度の事業計画にそって、各委員会（編集委員会、広報委員会、学術連携委員会、教育活動委員会、災害支援特別委員会、総務委員会）の活動を中心に、学術団体としての活動の促進、政策提言、学会員の皆様へのサービスの向上、災害支援等の社会貢献、学術集会の開催などについて検討しています。具体的な活動は、各委員会からの報告をご参照ください。

さて、こうした活動に加え、昨年6月16日の総会で本学会は平成27年4月を目処に一般社団法人に移行することが議決されました。それを受けて理事会では、法人化にむけた検討を進めて参りました。これまで2回の理事会では、専門家のコンサルテーションを得ながら、本学会の組織のあり方を示す基本ルールである「定款案」を検討しております。定款は、法で定められた事項にそって作成し、本学会が法人として認められるために重要なものです。これからも理事会で検討を重ねながら作成し、次回、6月の総会にて皆様からご審議いただく予定です。定款案をはじめ法人化への移行につきまして、会員の皆様から御意見を頂戴する機会として、3月8日（土）に臨時評議員会、5月17日（土）に会員の皆様を対象とした説明会を予定しています。是非、ご参加ください。会場等の詳細が決まりましたらホームページやマイページ等でお知らせします。

平成25年12月現在、日本精神保健看護学会の会員数は1,075名となりました。また8割程度の方が、マイページに登録されています。今後も情報発信、そして会員の皆様からの御意見を吸い上げながら活動を展開していきたいと思っております。マイページの活用につきましても、新たなサービスを検討しています。まだ登録されていない方は、是非、ご活用ください。本学会の活動や研修会のほか、他学会や団体からのお知らせを随時、メールにてお届けしています。

（総務）

ニュースレター原稿募集

学会では、学会員の主催する精神看護関連の活動を支援し、また、より広く交流を図れるよう、ニュースレターに掲載する原稿を広く募集しております。

皆様が主催される様々な精神看護関連の活動について、ニュースレターでの広報をご希望の際には、その活動内容、主催者（お名前とご所属）、開催場所・日時、参加方法、連絡先に関する原稿をお寄せください。

また、現在の精神保健医療や看護に関するご意見や問題提起、あるいは学会員の方々と共有したい情報などもお寄せいただければ幸いです。広報委員会で検討させていただき、ニュースレターに掲載したいと考えています。皆様からのお原稿をお待ちしております。

The Japan Academy of
Psychiatric and
Mental Health Nursing
*News
letter*

編集後記

みなさま新年明けましておめでとうございます。理事会報告にもありましたように、日本精神保健看護学会は、昨年、会員数1,000名をこえました。ますますパワーアップした当学会は、本年、一般社団法人に移行すべく歩みを進めてまいります。また、京都での学術集会の思い出もまだ色あせない中、次の横浜での学術集会の準備が着々と進んでいます。委員会活動もさまざまな成果を残しております。ニュースレターでは、今年も、パワーアップしながら進んでいく学会の動きをお伝えできればと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

編集委員：畦地博子 田井雅子 畠山卓也 榎本 香

広報委員会 ホームページ担当：萱間 真美 ニュースレター担当：畦地 博子

（お問い合わせ先）メールアドレス：azechi@cc.u-kochi.ac.jp

TEL/FAX：088-847-8717